様式－２

「超重交通に対応する長寿命舗装技術」

に関する技術確認書

|  |  |
| --- | --- |
| 技術名称  （30文字以内） |  |
| （副題） |  |
| 概要  （200文字以内） |  |
| 現場実証 | 現場実証を希望する工区　工区 |
| 所属 | （共同体の場合は、構成員全てを記載するとともに、代表者に◎を付けること） |
| 氏名（ふりがな） |  |
| 応募者区分 | □個人　□民間企業　□共同体 |
| 提出日 | 令和　年　月　日 |

※現場実証を希望する工区は、別紙－１に示す工区の中から提案する技術に適している工区をひとつ記入願います。

※公募技術、リクワイヤメントが整理されているかを確認するために必要な情報ですので漏れがないように記入願います。なお、記載欄が不足する場合、別途資料を添付することは構いません。

※該当する項目については、原則すべて記入願います。不明な場合は、「公募要領」記載の「問い合わせ先」にご連絡願います。

【根拠に関する事項】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | リクワイヤメント | 確認事項 | 根拠に関する事項 |
| 必　　須　　事　　項 | ①輪荷重５．７５ｔを想定して嵩上げ無しで舗装の耐久性を向上させること | 1)ひび割れ率及びわだち掘れ量  （使用目標年数を２５年とした供用性（交通規制を伴う補修を行わず、かつ、ひび割れ率４０％、わだち掘れ量４０ｍｍに達しない）を示す舗装構造設計等） | ※応募する技術がリクワイヤメント、公募要件を満足していることが分かる根拠を記入して下さい。  ※根拠を裏付ける詳細かつ明確な資料を、その資料に資料番号を付し別途添付して下さい。 |
| ②従来と同等もしくは少ない時間で施工・交通開放が可能であること | 1)施工性 | ※同上 |
| ③従来技術と比較してLCCが同等もしくは抑制されること | 1)LCC抑制 | ※同上 |
| ④再生利用が可能であること | 1)再生利用 | ※同上 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 自由記述 | その他 |  | ※その他、特筆すべき技術的特徴がある場合には、記入して下さい。 |

【根拠に関する事項（例）】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | リクワイヤメント | 確認事項 | 根拠に関する事項（例） |
| 必　　須　　事　　項 | ①輪荷重５．７５ｔを想定して嵩上げ無しで舗装の耐久性を向上させること | 1)ひび割れ率及びわだち掘れ量  （使用目標年数を２５年とした供用性（交通規制を伴う補修を行わず、かつ、ひび割れ率４０％、わだち掘れ量４０ｍｍに達しない）を示す舗装構造設計等） | 1)以下の試験結果等 ・舗装構成（ＴＡ含む）  ・使用材料  ・配合  ・施工方法  ・ひび割れ率  ・わだち掘れ量  ・超重交通走行時において疲労破壊しないことを示す根拠資料（実験データ等）  ・使用材料の劣化特性や劣化に関する資料 |
| ②従来と同等もしくは少ない時間で施工・交通開放が可能であること | 1)施工性 | 1)以下のいずれかについての施工計画、タイムスケジュール及び根拠等  （該当する項目を■に置き換える）  □日々開放（段差無し）  □日々開放（段差有り） |
| ③従来技術と比較してLCCが同等もしくは抑制されること | 1)LCC抑制 | 1)以下の算出結果等  ・建設費用及び設計期間の算出根拠 |
| ④再生利用が可能であること | 1)再生利用 | 1)以下の根拠  ・再生利用が可能な根拠 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 自由記述 | その他 |  | アスファルト混合物製造時に発生するCO2 を従来と比較して▲▲%削減できる根拠となる資料を添付する。 |